

クローズアップ

脳神経内科医、僧侶として ブレインバンク運動にかかわって

徳島大学脳神経内科・
浄土真宗本願寺派僧侶



和泉 唯信 教授

医学との出会い

——僧籍をお持ちなのですね。

全身の筋力が低下し、構音障害、嚥下障害、呼吸障害をきたすALS(筋萎縮性側索硬化症)などの神経難病には、まだ根本的な治療法

がないものが少なくない。治療法はどのように開発するのか。脳神経内科医で浄土真宗本願寺派僧侶、さらに高齢者ブレインバンク(脳バンク)運動にも取り組んでいる徳島大学大

学院臨床神経科学分野(脳神経内科)教授、和泉唯信さんに聞いた。(聞き手・池田知隆)

神経難病をめぐって

——ALS研究にかかわられて約20年余。い

まどのような研究を。

発症後3~5年で呼吸筋麻痺を来し、人工呼吸管理を行わない場合、呼吸不全で死亡に

基礎研究を進めています。ALSの臨床研究に本格的に取り組んだことで、多くの患者さんが全国各地から訪れていました。ALSは原因が解明されていませんから血液、遺伝子、病理解剖による生体試料を用いた基礎研究も少しずつ進めています。

——僧籍をお持ちなのですね。

あの小説は、負け続ける物語です。柔道で弱いと押しつぶされないように耐えなくてなりません。強くても勝ち続けることは難しい。ALSなどの難病は手強い相手で、負かされ続けます。私がかかわった患者さんもすべて亡くなりました。連敗が続いても、あきらめず、病に取り組まなくてはなりません。

広島県三次市で約500年前の戦国時代から続く寺の跡取りとして生まれました。本願寺派のお寺なので本来ならば、京都の龍谷大学に進学することが多いのですが、将来、寺を継ぐという父との約束のもと、大学は北海道大学理学部に進学しました。

——理学部での専攻は何を。

数学科で、群論を少しやりました。でも、高校時代から始めた柔道に熱中し、数学を学んだとは恥ずかしくてとても言えません。北大

数学科で、群論を少しやりました。でも、高

校時代から始めた柔道に熱中し、数学を学ん

だとは恥ずかしくてとても言えません。北大理学部数学科ではその案内で「24時間数学を考える学生を望む」とありましたが、「24時間、365日柔道を考える学生」になってしまい

——医学とのかかわりは。

北大卒業後、京都で僧侶の修業をして広島に戻るつもりだったのですが、父が既に開設

していた老人福祉施設に続いて病院を開院し

研究に力点を置き、治験を活発に行なながら、

——北大柔道部での活躍は、青春柔道小説『七

帝柔道記』(増田俊也著、角川文庫)でも紹介され漫画にもなっています。「坊主頭で厳しい目つきの持ち主で一見こわもてだが、打ち解けると人懐こい笑顔を見せる。北大柔道部が七帝戦(旧七帝国大学)で2年連続最下位である現状を憂いでいる」とありますが、柔道の経験はいまも生かされていますか。

——医学との出会い

医学との出会い

クローズアップ

「葬式の時だけ呼ばれる僧侶ではなく、医師になつて広い意味で教えを『体現』してほしい」と言い出しました。思ひに共感し、徳島大学医学部に再入学しました。当時24歳でした。北大では何も勉強してこなかつたので、逆に学ぶ

ことがとても新鮮でしたよ。

——どうして脳神経内科を選んだのですか。

手先が器用なわけでもなく、外科には向きません。内科の中で循環器内科、血液内科など

も考えたのです

が、尊敬してい

た生化学教室の山本尚三教授の勧めで脳神経内

科を選びまし

た。神経難病の

ように根本的治

療がないもの

や、認知症疾患

のように慢性の

長い経過をたど

るものもあり、

宗教者としても

かかわれる部分

が少くないと

今では思つてい

ます。

——卒業後、故

郷の広島大学第

三内科(現脳神

経内科)に入局

されましたね。



脳卒中血管内治療の現場の光景

亀山重信先生が率いられていた広島大学第三内科に入局後、大阪の住友病院で2年4ヶ月研修をしました。住友病院では中村重信先生や梶龍兒先生(現在・国立病院機構宇多野病院院長)の恩師でもある故・亀山正邦先生が病院長を務められていました。亀山先生にはとても強い影響を受けました。その後、帰局し、川上秀史先生(現在・広島大学原爆放射線医科大学教授)の指導により神経変性疾患の遺伝子研究に取り組みました。

——亀山先生からはどんな影響を。

亀山先生の患者さんが緊急入院し報告に伺い状態や検査データを説明しようとすると、それを制されました。まず患者さん本人を診られてその後データなどを聞かれるというスタンスでした。また患者さんが亀山先生の診察に来られ先生にお会いされたらとても安心した表情をされるのが強く印象に残りました。患者さんは亀山先生のお顔を見ると、表情がぱつと明るくなりましたよ。

脳神経内科に限らず、治らない病気も少なくない中で、患者さんを安心させることはとても重要です。あれから25年経ちますが、最近は特にその思いが強くなっています。

中村重信先生が率いられていた広島大学第三内科に入局後、大阪の住友病院で2年4ヶ月研修をしました。住友病院では中村重信先生や梶龍兒先生(現在・国立病院機構宇多野病院院長)の恩師でもある故・亀山正邦先生が病院長を務められていました。亀山先生にはとても強い影響を受けました。その後、帰局し、川上秀史先生(現在・広島大学原爆放射線医科大学教授)の指導により神経変性疾患の遺伝子研究に取り組みました。

——ブレインバンク運動とは。

月研修をしました。住友病院では中村重信先生や梶龍兒先生(現在・国立病院機構宇多野病院院長)の恩師でもある故・亀山正邦先生が病院長を務められていました。亀山先生にはとても強い影響を受けました。その後、帰局し、川上秀史先生(現在・広島大学原爆放射線医科大学教授)の指導により神経変性疾患の遺伝子研究に取り組みました。

いかに医療技術が進歩し、スーパードクターの活躍が取り上げられても、現実には今も有効な治療法がない難病があります。ALS以外でも患者数の多いアルツハイマー病の患者さんも治療により回復はしません。根本的に脳の病気を解明するには、脳そのものを使った研究が求められているのです。

医学研究のための解剖には「系統解剖」と

「病理解剖」の二つがあります。医学生の解剖学教育のために白菊会などからの献体によって行われる「系統解剖」は、お墓の維持が困難になつてているなどの現代社会の問題もあります。とでも増加しています。献体を志願される方は純粹に医学の進歩を期待されていると思います。しかし、現実には系統解剖はその人の病理の解明は行わないのです。治療の甲斐なく亡くなられた患者さんの死因を特定するためには「病理解剖」が必要なのです。この病理解剖は原因が解明されていない疾患の研究にも役立ちます。そのため、医学の進歩に欠かせないのでですが、残念ながら、減少傾向にあります。

高齢者ブレインバンクは、脳や神経の病気を克服することを目指した人の脳組織を系統的に保存するための運動で、患者さんやご家族の双方に献脳生前登録への理解を求めて

います。

——「ドナー登録」はどのように。

説明を聞いていただき内容に同意されたら承諾書に署名していただき登録となります。全国でいくつかの拠点病院があります。

中島みゆきの歌「命のリレー」はご存知ですか。この一生だけではたどりつけなくとも、命のバトンを引き継いでいこう、という歌で、高齢者ブレインバンクを推進しておられる村山繁雄先生（現・大阪大学特任教授）のお好きな曲ですが、ブレインバンクの想いに共通するものがあります。その想いを広く伝えていきたいですね。

徳島大学病院や父が設立し、私がかかわった「ビハーラ花の里病院」（広島県三次市）で

も、神経難病の患者さんに積極的に病理解剖を進めてきましたし、少なくない患者さんやご家族にご理解を得ました。ブレインバンク活動にも少しづつ地道に取り組んでいます。

——人の生死を医師と僧侶の両方向から見ておられますね。

苦痛を和らげるという意味では医師と僧侶も同じです。「ビハーラ花の里病院」には仏間があり、玄関には僧侶としての想いである「病

ミニ懇話会 ヒトビトノ 安ラグ家ト ナラ

ムカナ」をモットーとして掲げています。父は常々、仏教は亡くなつた人のための作法ではないと話し、私に生きている人のために仏教を説き、また人の話を聞ける人間になつてほしいと期待していました。

そんな父がある日、突然、吐血してそのまま帰らぬ人になりました。長く生きてほしいとの願望があつて父の症状を正しくみえていたかった、と私はいまも後悔しています。親鸞の教えにあるように、明日があると思つて暮らしていくても、明日があるかどうかわかりません。私自身も、誰でもそうです。患者さんとも毎回、そんないい意味での緊張感をもつて向き合つていきたいですね。

——若い医師たちへのメッセージを。

若い医師たちには「いまいるその場で精一杯頑張る」ということ、「受け継ぐ」ことを伝えたいですね。先輩が後輩に教えるだけではなく、後輩がまた先輩の想いや考えに後から思いをめぐらすことが大切だと思います。若い医師は知識だけでなくその背景も受け取らないといけないと思います。

私のALSの研究も、亀山先生、梶先生をはじめとした先達のお仕事の延長です。医学的にできるかぎり理解を深め、それをまた後輩に引

き継いでいくことと、僧侶として先人の思いを受け取り、伝えていくことは重なっています。高齢者ブレインバンク運動にも、そのように受け継ぐ」ということを実践する大きな意味があります。



徳島大学脳神経内科のみなさん

高齢者ブレインバンク

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2
東京都健康長寿医療センター内
高齢者ブレインバンク事務局
TEL 03-3964-3241(内線4419、4417)
FAX 03-3579-4776
<https://www2.tmic.or.jp/brainbk/>

和泉唯信教授の略歴

1965年2月	広島市生まれ、三次市で育つ
1983年3月	広島県立日彰館高校卒
1989年3月	北海道大学理学部卒・体育会柔道部
1995年3月	徳島大学医学部医学科卒
1995年4月	広島大学第三内科入局
1996年4月	財団法人住友病院勤務(1998年7月まで)
2001年4月	徳島大学医学部附属病院
2020年2月	徳島大学大学院臨床神経科学分野(脳神経内科)教授